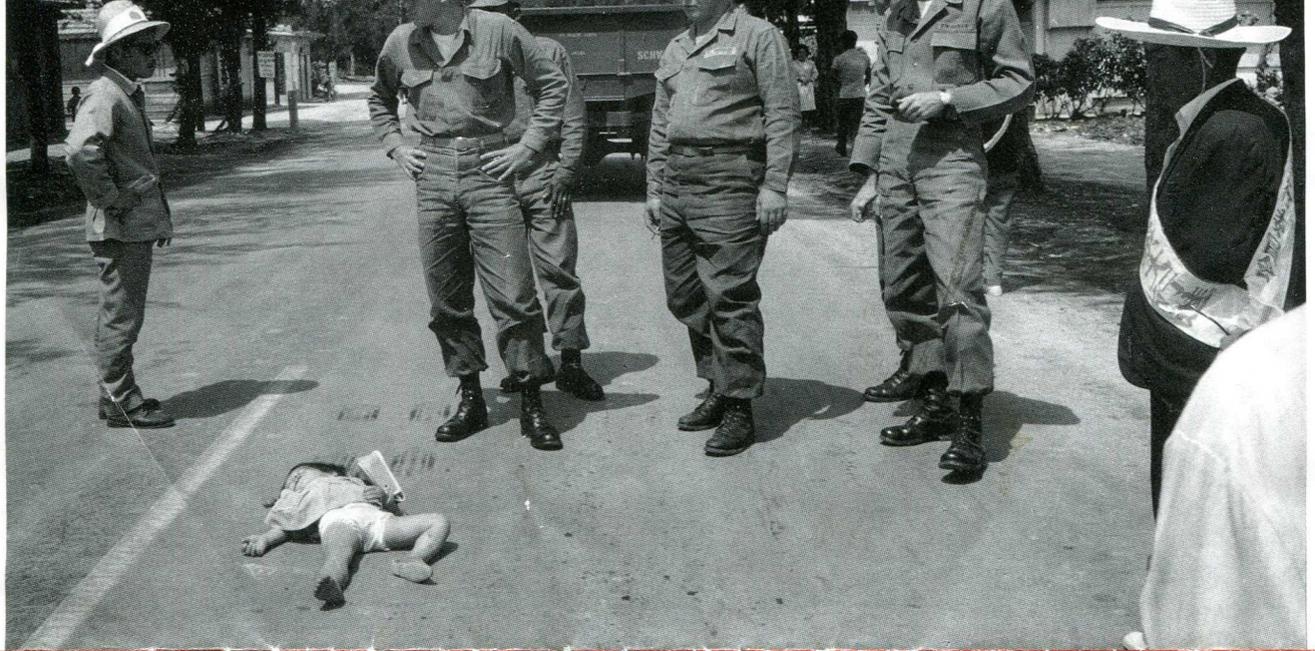


# この子は沖縄だ...



## 沖縄へ行こう 辺野古に行こう 高江に行こう

1965年4月、沖縄宜野座村で、小さな女の子が米軍のトラックにひき殺された。手に通園用のバッグを持ったまま。死んだ女の子の側に突っ立っているだけのアメリカ兵。しかし驚いたのは、駆けつけた日本の警察です。米兵を逮捕するでもなく、なんと軍用車がスムーズに走れるように交通整理をはじめたのです。・・・と語るのは逮捕される危険を冒してこれを撮った写真家嬉野京子さん。「すごい衝撃でした。これが沖縄だと」



貴重な1枚の写真。そこに写っているのは沖縄の、積年の憤りであり悲しみです。アメリカにも日本にも見捨てられている瀕死の女の子は、まぎれもなく過去の沖縄、そして今の沖縄。

当グループは、「少女轍殺」の事実には強い衝撃を受けた者たちによって、2015年4月に結成されました。

**私たちはこの子を、2度死なせるわけにはいきません。**

**この気持ちを沖縄に伝えたい。大きく息を吐いて、さあ沖縄へ。今こそ沖縄へ。高江の早朝座り込みに駆けつけよう。**

呼びかけ人 杉浦ひとみ(弁護士) 田中美津(鍼灸師) 浜矩子(同志社大学大学院教授) 嬉野京子(カメラマン) 上原公子(元国立市長) 木村まり(会社員) 坂本信子(団体職員) 疋田瑠奈(学生) きくちゆみ(作家) 滝沢香(弁護士) 坂上香(映画監督) 神田香織(講談師) 小倉志郎(コスタリカに学ぶ会) 金子飛鳥(音楽家) 前田榮子(基地のない平和な沖縄をめざ会) 岡田弥生(歯科医) 益永陽子(医師) 溝口真理(教員) 福永コースケ(みん宿ヤボネシア) 角田由紀子(弁護士) 米津知子(会社員) 三井富美代(NPOスタッフ) 中野理恵(パンドラ) 高橋美穂子(パート勤務) 千田有紀(社会学教員) 木村真美(弁護士) 糸数けい子(参議院議) 宮本京子(会社員) 以下略



グループ「この子、は沖縄だ」 FAX 042-676-7650 ホームページ <http://hmw.or.jp/~okinawa>

カンパ頼みま〜す! →ぐるーぷ「この子、は沖縄だ」 三菱東京UFJ 本郷支店 店番 351 普通 0185206

## 第9回 秋の辺野古座り込みツアー3泊4日!

ただいま参加者募集中!

詳しくは「この子、は沖縄だ」で検索を!

辺野古の新基地建設反対の中心はジジババだ。戦中・戦後の悲惨な思い出を胸に、必死に座り込むそのジジババをごぼう抜きしながら、工事は日々、粛々と進んでいく。本土は・・・と振り返れば、大多数の者たちは相変わらずの無関心。

なにか希望はあるのだろうか。連日カヌーに乗って海からの抗議行動に参加している作家・目取真さんは、「絶望も希望もない。その場でできることを黙々と、淡々と、やるだけですよ」と。

生きものは息をする。息をすることは絶望でも希望でもない。それは、この今、生きているという、なにより確かな証(あかし)だ。自分は息をするように、カヌーに乗って抗議している、それだけのことだよ。目取さんは、そう言っているような……。

そう、生きものには、呼吸が必要。初秋の辺野古で、あなたも息してみませんか。ふう〜っと、この際大きな息を……。沖縄のジジババと一緒に!

.....  
このツアーは、

一に辺野古で建設反対の座り込みをする(今回は2日間連続で)。

二に、ただ座り込むだけではなく、沖縄の人々や文化、暮らしといったものに五感を通じて触れていく、知っていく・・・という事を大切にしています。

辺野古での座り込み2日間+グラスボートに乗って大浦湾のサンゴ礁の状態を確認する+民俗

資料博物館で沖縄の歴史、生活学ぶ+屋我地島でシーサー作り、素晴らしい夕焼けや満点の星空

と出会う+ イメージトレーニングのレッスン+生活感あふれる「栄町市場」めぐり ets

●日時 2017年9月6日(水)~9日(土)の3泊4日

●募集 12人(集まり次第、締め切ります) ●参加費 59,500円

### ◎申し込み

以下を記して、「この子、は沖縄だ」のホームページの「ツアー申込欄」から、またはファックス(☎042-676-7650)にて送ってください。

①住所(〒も) ②氏名 ③年齢 ④性別 ⑤電話・携帯 ⑥メールアドレス